



# 全国私立大学 FD連携フォーラム

News Letter No.13

## C O N T E N T S

P. 2	ご挨拶
P. 3	加盟校一覧／ 新規加盟校のご紹介（南山大学）
P. 4	新規加盟校のご紹介（専修大学）／ 2017年度取組概要
P. 5-6	2017年度前半期活動報告 （総会・パネルディスカッション報告）
P. 7	2017年度後半期活動報告 （懇談会報告）
P. 8	入会のご案内／実践的FDプログラムのご案内



▶ 代表幹事校・地域担当幹事校【西日本担当】 同志社大学

## 設立10周年を迎えて



同志社大学 学習支援・教育開発センター所長  
大島 佳代子

2008（平成20）年12月、学生の規模や多様性の面で共通の課題を抱える中規模以上の私立大学が互いに持てる力を出し合い、FD分野において連携することを目的として発足したJPFFは、今年で10周年を迎えます。JPFFニュースレター第1号が発行されたのが2010年3月ですが、当時18校で運営されていたJPFFも、現在では37校と約2倍の規模にまで発展しました。これまで、総会の折に行われるパネルディスカッションや加盟校ミーティングの折の懇談会において、時期に合った共通の課題につき情報共有や意見交換を重ねてきました（例えば、授業アンケートの活用、アクティブ・ラーニングの事例や支援の取組み、IRとFDの改善、大学のグローバル化への対応など）。また、教員が自らの授業を専門分野と教育学の観点から省察することができる知識、技能、態度、特にアクティブ・ラーニングを実践する能力を修得するために開発された研修プログラムである実践的FDプログラム（オンデマンド講義）は2017年度には37のプログラムが提供されています。

10周年という節目を迎えるにあたり代表幹事校を担うことになった同志社大学は、これまでの活動を振り返る中で、実践的FDプログラムが十分に利用されていないことに気がつきました。1月の懇談会に向けて加盟校（会員校に属する視聴経験者も含む）すべてにアンケート調査を行った上で、懇談会の出席者とともに視聴し、それに基づいて意見交換を行って頂いたのは、今後の実践的FDプログラムのあり方を考える一助となればとの思いからでした。次の10年を見据えたときに、JPFFの共通財である実践的FDプログラムの内容や利用について検討することは残された課題だと思いません。

社会情勢がめまぐるしく変化し、大学教育に求められることが多様化している状況下において、今後は、JPFF会員校の一層の連携が重要になるものと思います。JPFFの更なる発展を祈念致します。

▶ 地域担当幹事校【東日本担当】 創価大学

## 大学間で連携する意義



創価大学 教育・学習支援センター長  
望月 雅光

創価大学は、2010年にJPFFに加盟をし、2015年より任期のある幹事校、そして2017年6月より、地域担当幹事校を担っています。加盟を決めた最大の理由は、本学のFDにとって必要な内容が網羅され、体系的に整理された実践的FDプログラムに魅力を感じたからです。またFDセミナーやフォーラムに参加できない忙しい教員にも、自分の時間に合わせてFD研修を受けてもらえます。実際には、教材を活用してもらうための色々な仕掛けが必要でした。例えば、ランチミーティングのような形で、数名の教員が集まって教材を視聴しました。

私がJPFFに関わるようになったのは昨年度からです。ここであらためて考えたのが、連携して実施するFDの意義です。大学によっては、競争・競争相手になることもあります。受験生の獲得と言う点では、かなり切実な問題です。最近では、大学の統廃合まで話題になります。それでも、大学改革や教育改革の原動力の一つであるFDを大学間が連携して推進する利点は何かということです。

ひとつの大学では、実施することができないFD研修プロ

グラムを共有することができます。また、ひとつの大学ではお招きするのが困難な方でも、大学間が連携することで講師としてお迎えして、講演会等を実施することもできます。

なにより大切にしたいのは、連携事業の輪に加わると、大学を越えて、教職員の立場を越えて、意見交換や情報交換を行うことができることです。事例やノウハウの共有だけでなく、新しい視点を持つこともできます。さらに、大学間の連携が深化すると、高等教育全体の発展にも寄与できます。将来的には、FDで困っている大学を支援することも可能かもしれません。ひとたび、大きな視点に立つことができたなら、きっと、大学間の些細な問題もりのこえられるでしょう。

その一方で、社会に目を向けると、AIの進展、少子高齢化社会の到来、環境問題への対応など、社会状況が激変する可能性があります。大学には、そのような社会状況に対応できる学生を送り出す責務があります。問題が大きくなり、複雑化すればするほど、連携して対応する必要も高まるでしょう。

10周年を迎えた本取組が、持続可能な形で発展できることを心より祈っております。

## 加盟校一覧

代表幹事校	同志社大学		
地域担当幹事校	創価大学【東日本担当】	同志社大学【西日本担当】	
幹事校	関西大学	関西学院大学	慶応義塾大学
	國學院大學	創価大学	中央大学
	中部大学	同志社大学	法政大学
	明治大学	立教大学	立命館大学
	龍谷大学	早稲田大学	
会員校	愛知大学	青山学院大学	神奈川大学
	関東学院大学	北里大学	九州産業大学
	京都産業大学	甲南大学	神戸学院大学
	国土館大学	芝浦工業大学	専修大学
	中京大学	帝京大学	東京農業大学
	東北学院大学	東洋大学	南山大学
	日本大学	福岡大学	武庫川女子大学
	名城大学	明星大学	
事務局校	立命館大学		

50音順、全37大学（2018年3月現在）

## 新規加盟校のご紹介

## 南山大学

## ◆全国私立大学FD連携フォーラムへの期待

南山大学は、2017年4月に「One Campus Many Skills」をキーワードとしてキャンパス統合を行い、ワンキャンパスにおける学生数1万人規模の大学となりました。また、時を同じくしてクォーター制を全学部・全研究科で導入いたしました。「One Campus」が実現した今「Many Skills」をどのように学生に獲得させていくのか、クォーター制という短期集中型の授業形態のもとでどのような授業改善を図っていくのか、課題は山積しております。全国私立大学FD連携フォーラムでの活動を通じて、他大学との情報共有や意見交換を行い、FDに関する先進的な取り組み事例や工夫等を学ばせていただき課題の解決を図るとともに、本学の教育力の向上に役立てていきたいと考えています。

## ◆学内のFD実践紹介

南山大学では、「人間の尊厳のために」をモットーとする建学の理念に基づき、教員の教育力と教育活動の向上を期して、自己点検・評価委員会のもと2005年にFD委員会を設立し、種々のFD活動の実施と推進を行っています。

- ・学生による授業評価アンケート（Webアンケート方式による全クォーター実施）
- ・教員による相互の日常的授業参観
- ・FDに関する講演会の開催（全学および学部・学科単位）
- ・新任教員研修会

最近では、学生による授業評価アンケートの結果分析をもとに、学生の自主的・主体的学びを促すためのFD企画の実施を重点とした活動を行っています。





◆全国私立大学FD連携フォーラムへの期待

専修大学では、21世紀ビジョンとして「社会知性（Socio-Intelligence）の開発」を掲げ、2020年に迎える創立140周年に向けて、様々な改革を推進しています。そうした中、全学のFDを担う教育開発支援委員会は、他の学内諸機関と連携し、教育の質保証に向けた各種取組を進めているところですが、その一方で、個々の授業の内容および方法を改善するための組織的な研修といった面が十分ではなく、委員会の課題として認識しています。

この全国私立大学FD連携フォーラムを通して、他大学における先進的な事例を学ぶとともに、実践的FDプログラムの活用を進めることにより、本学におけるFD活動をより充実したものにしていきたいと考えています。

◆学内のFD実践紹介

本学の教育開発支援委員会では、全学的な取り組みとして、「新任教員教育支援説明会」の実施、『教育開発支援NEWSLETTER』および『授業のツールボックス』（教育支援のための小冊子）といった印刷物の発行などを行っています。

そうした活動に加え、アセスメントテストや卒業生に対するアンケートの分析、シラバス執筆要領やカリキュラム・マップの様式の作成、アクティブ・ラーニングの促進などにも取り組んでいます。



2017年度 取組概要

2017年度 幹事会

日 時：2017年6月3日(土)12:00~13:00

会 場：中央大学 駿河台記念館

2017年度 代表幹事校ミーティング

日 時：2017年11月20日(月)14:00~16:00

会 場：同志社大学

東京サテライト・キャンパス、今出川キャンパス

2017年度 総会・パネルディスカッション

日 時：2017年6月3日(土)13:00~17:00

会 場：中央大学 駿河台記念館

◆パネルディスカッションテーマ

テーマ：授業形態・授業時間の多様化への対応  
～教育効果をあげるための取組事例～

◆話題提供

東京大学 大学総合教育研究センター 准教授

栗田 佳代子 氏

国際基督教大学 前教養学部長

伊東 辰彦 氏

明治大学 教務担当副学長兼教務部長

千田 亮吉 氏

◆コーディネーター

中央大学 FD推進担当学部長、文学部長

都筑 学 氏

2017年度 幹事校・会員校ミーティング

日 時：2018年1月12日(金)13:00~14:00

会 場：同志社大学

東京サテライト・キャンパス、今出川キャンパス

2017年度 懇談会企画

日 時：2018年1月12日(金)14:00~16:30

会 場：同志社大学

東京サテライト・キャンパス、今出川キャンパス

テーマ：「アクティブ・ラーニングの効果と課題」

「JPFFのオンデマンド講義の活用方法等について」

## 2017年度前半期活動報告（総会・パネルディスカッション報告）

## 総会・パネルディスカッションを振り返って

中央大学FD推進委員会

委員長 瀧澤 弘和

2017年度のJPFF総会ならびにパネルディスカッションは、2017年6月3日（土）、中央大学の駿河台記念館にて開催されました。

まず総会では、私、中央大学FD推進委員会委員長の瀧澤弘和の司会の下で、前年の活動・決算報告、ならびに2017年度の活動計画とその概要、年間スケジュール、予算等について報告と審議が行われました。今年度の総会においては、任期の定めのある幹事校に國學院大学、中部大学が決定されるとともに、新規会員校として新たに2校が加わることに決定し、今後におけるJPFFの更なる安定的な運営が期待されるところです。そのほか、立命館大学が提供するビデオオンデマンド講義の配信サービスの見直しについて、現状における配信サービス課題の抜本的解決を図りその環境をさらに充実したものとすべく、JPFF予算を活用することが承認され、今後は、外部の動画配信サービス利用とビデオオンデマンド講義活用促進に向けて検討を行っていくことも確認されました。



総会に引き続いて開催されたパネルディスカッションでは、そのメインテーマを「授業形態・授業時間の多様化への対応 ～教育効果をあげるための取組事例～」として、授業時間の多様化に伴って教育の質をどう担保していくべきか、教員はどのように授業を考えていけばよいか、そのとき職員はどのような対応が求められるか、教育効果を上げるための具体的な取組事例として3つの大学から事例報告がなされ、その後ディスカッションのテーマについて会場全体で議論を深めました。

まず、東京大学大学総合教育研究センター准教授の栗田佳代子先生より、東京大学において2013年度から開始している、大学教員を目指す大学院生および教職員対象の「東

京大学フューチャーファカルティプログラム」について、その取組みの概要および全体設計や個別授業の設計のあり方、学びを促すための具体的な方法と工夫のポイント、今後の課題等について詳細な報告がありました。

続いて、明治大学教務担当副学長（兼教務部長）明治大学商学部専任教授の千田亮吉先生より、明治大学が2017年4月から導入した新授業時間割と新学年暦について、その導入に至った経緯と開始後の実際について、教員や学生の声などもご紹介いただきつつ、制度導入までのご苦労や現在の状況、今後における課題について報告がありました。また、これに加えて、これらの新しい教育体制のもとで明治大学が推進する総合的な教育改革の構想や具体的な方向性についても報告がありました。

そして最後に、国際基督教大学前教養学部長の伊東辰彦先生から、授業の時間の長短が問題なのか、あるいは、内容が授業の長さを決めるのか等の問題提起等を踏まえつつ、国際基督教大学で開学以来実施している1コマ70分の授業に関し、コース設計の狙いや学習上の効果・メリット、11週で完結する3学期制との関係性、自身の経験から得られた結論について報告がなされました。

近年、グローバル化への対応や柔軟で多様なアカデミック・カレンダーの設定が大学に求められる中で、いずれの大学においても授業形態・授業時間の多様化と、それに伴う単位の実質化に向けた取組の推進が喫緊の課題となっています。このことを裏付けるかのように、各パネリストの方々からの報告の後に行われたディスカッションでは、制度面・運用面に関する事項について、教員・職員を問わず会場からの多数の質疑が寄せられ、こうした制度の在り方や導入のための方策等を考えていくうえで、大変示唆に富んだ有意義な時間となりました。そして、質疑応答の後に、コーディネーターである中央大学文学部長の都筑学先生の



閉会の挨拶をもって、今年度のパネルディスカッションは幕を閉じました。

パネルディスカッションの後に執り行われた懇親会は、パネリストの先生方、また、遠方からお越しになった方々を含め、非常に多くの方々にご参加いただき、多くのテーブルでにぎやかな会話が絶えない情報交換の機会となりました。

今回のパネルディスカッションには、100名を超える方々に参加いただきましたが、このことは教職員を問わず多くの大学関係者が昨今の高等教育行政の動向に関心を有し、私立大学が置かれている厳しい環境を打破するためにどうすればよいのかを真剣に考えていることの表れだと考えて

います。冒頭にも触れましたが、JPFは今年度新たに2校の参画を得て、現在は37校の会員数となっています。多くの大学が抱える課題を共有し、大学間の情報交換を盛んに行うことでその課題を克服する、あるいは各大学におけるグッドプラクティスとなる取組を共有し、それを各大学の財産として昇華させる、JPFはそんな正のスパイラルを生み出すことが可能な組織なのではないでしょうか。教育の質が重要視される今日にあって、各大学の知恵を持ち寄り、私立大学の存在感をさらに高められるよう、今後のJPFにおける議論がより一層活発なものとなることを心より期待しております。



## パネルディスカッション次第

### ◆ 開会挨拶

都筑 学 氏 (中央大学 FD推進担当学部長、文学部長)

### ◆ 話題提供

#### 「主体的に学ぶ授業を学ぶ」

栗田 佳代子 氏 (東京大学 大学総合教育研究センター准教授)

#### 「70分授業実施の前提」

伊東 辰彦 氏 (国際基督教大学 前教養学部長)

#### 「明治大学における100分授業導入の経緯と実際」

千田 亮吉 氏 (明治大学 教務担当副学長兼教務部長、商学部専任教授)

### ◆ パネルディスカッション

コーディネーター：都筑 学 氏 (中央大学 FD推進担当学部長、文学部長)

### ◆ 閉会挨拶

大島 佳代子 氏 (同志社大学 学習支援・教育開発センター所長)

## 2017年度後半期活動報告（懇談会企画報告）

## 2017年度懇談会企画 開催

JPFF幹事校（同志社大学・創価大学）

2018年1月12日（金）、JPFF加盟校による第7回懇談会が開催されました。この懇談会は、各大学におけるFD活動の取り組みの改善・発展の一助とすることを目的としており、毎回、事前にディスカッションテーマを決め、テーマに関する各大学における課題やグッド・プラクティスを共有しています。今回は、オンデマンド講義として2009年に撮影された関西大学の三浦真琴先生の教授学習理論Ⅲ「アクティブ・ラーニングの理論と実践における課題」を視聴していただきました。そのうえで2012年の中教審答申『新たな未来を築くための大学教員の質的転換に向けて』から数年経った現在の各大学のアクティブ・ラーニングの導入状況、効果、実施にあたっての課題等について共有していただき、今後のあり方について各グループで活発なディスカッションが行われました。各グループでの懇談の後には、各グループで出された意見を報告し合い、情報共有を図りました。

## 【実施概要】

日時：2018年1月12日（金）14：00～16：30

会場：関東会場 同志社大学  
東京サテライト・キャンパス

関西会場 同志社大学  
烏丸キャンパス志高館

（※テレビ会議で接続）

## 【テーマ】

- ・アクティブ・ラーニングの効果と課題
- ・JPFFのオンデマンド講義の活用方法等について

## 【各グループでの討議のまとめ】

＜アクティブ・ラーニングの効果と課題＞

- アクティブ・ラーニング（以下、AL）は本当に効果があるのか、わかりやすい形で提示することで多くの教員が取り組もうとするのではないかな。
- ALの効果は各大学とも教員の意識としてはある程度認識しているのではないかな。但し、ALに対するハードルの高さが先生（若手、ベテラン）によって違うためペアワーク等簡易的なワークを導入することによってその効果を大学として組織的にPRしていくことが重要ではないかな。
- ALを実践するためにどのような設備が必要でその受容性があるか。固定式の大人数の教室でできるのか。それともラーニング・コモンズのような専門的な施設を作るべきなのか。各学部のDPやカリキュラムツリーとの関係性をどうするのか。
- 学部学科ごとの意見がでてくるため到達目標をどの程度定めるのか。
- ALを導入した後の効果をいかに測定するのが難しい。

○ALで自己達成感を学生は得ているが深い学びになっていないALも多いのではないかな。

○ALという言葉が一人歩きして拒否反応を示す教員もいるため、何を学ばせるのか、という目的の設定と広い周知が必要ではないかな。

＜JPFFのオンデマンド講義の活用方法等について＞

○周知をどうしたらいいかわからない、アクセスが難しい。

○研修などの教員の集まるところで動画を流してディスカッションをしてはどうか。

○教員と職員にそれぞれみてもらい、共通の認識で授業改善に取り組んでいったほうが良いのではないかな。

○一つの講義時間が長いため今回のように焦点を絞り、各大学で活用するべきではないかな。

○旅費をかけて現場に行くよりもメリットがあるところを活かしながらJPFFの組織としての共有財産として使っていくべきではないかな。

## 【懇談会のまとめ】

ALについては様々な課題が出たが、何を学生に学ばせるのか目的を明確にすることが重要であること、各大学でFDを実施しているものの真意が教員に伝わっていないこと、また伝わっていても実行する方法がわからない等、共通する課題を抱えていることが共有されました。今後は今回の懇談テーマでもあるオンデマンド講義を有効活用して、よりALを行いやすい環境を整えていくことが課題とされ、JPFFという繋がりの中で、大学同士が情報を共有し切磋琢磨できる環境は貴重であるという認識も共有されました。また、JPFFの将来性については更なる発展のためのディスカッションを行っていくべきとの声がありました。

## 会員校ミーティング報告

## 1. 全国私立大学FD連携フォーラム事務局体制について

「事務局業務を外部委託する」、「委託業務は会計、会費請求、会員管理、HP管理、企画の準備等」、「費用は約100万円」ということについて承認を得た。

## 2. 全国私立大学FD連携フォーラム代表幹事校、地域担当幹事校および監査役の当番制について

代表幹事校、地域担当幹事校および監査役の当番制について承認を得た。

## 3. 2018年度総会開催について

2018年6月16日（土）もしくは6月23日（土）での開催を予定しており、場所は同志社大学今出川キャンパスで開催する。総会内で10周年企画（講演会）も実施の予定であり、アンケート結果を参考に代表幹事校で招聘者の選定を行いたい。



## 入会のご案内



全国私立大学FD連携フォーラムは、全国の中規模以上(学生数8,000名以上)の私立大学が連携し、全国の高等教育の質の向上を目指し、活動しています。本フォーラムでは、高等教育の質の向上に資するため、加盟校間での情報共有や意見交換を促進しています。

ウェブサイトでは取り組みの概要や、加盟校のFD活動についてご紹介しております。詳しくは下記ページをご覧ください。

URL: <http://www.fd-forum.org/fd-forum/>

入会を希望される場合には、ウェブサイト「入会のご案内」から「入会届」をダウンロードの上、事務局まで郵送、メール、FAXでお送り下さい。

※フォーラム運営に係る費用は、会員校の年会費で賄っております。

(年会費:5万円(2018年3月現在))

※入会に関するご質問がございましたら、事務局までお問い合わせください。

## 実践的FDプログラムのご案内

実践的FDプログラムとは、教員が自らの授業を専門分野と教育学の観点から省察することができる知識、技能、態度、特にアクティブラーニングを実践する能力を修得する研修プログラムです。

本プログラムは、教員の4つのアカデミック・プラクティス(教育、研究、社会貢献、管理運営)に対して、

- ① 教育学をはじめとした系統的な理論のオンデマンド講義
- ② 授業技術やコミュニケーションスキルを育成するワークショップ
- ③ 個々の教員ニーズに応える日常的な教育コンサルテーション

から構成されています。

私立大学には、クラス規模の大きさ、教員の持ちコマ数の多さ、学生の学力と学習意欲の多様性など、多くの困難な教育条件が存在します。たとえば、各大学では、新任教員研修において本プログラムを利用することを通して、大学教員に求められる教育力量と職能を育成し、大学教育の質を保証することが可能となります。

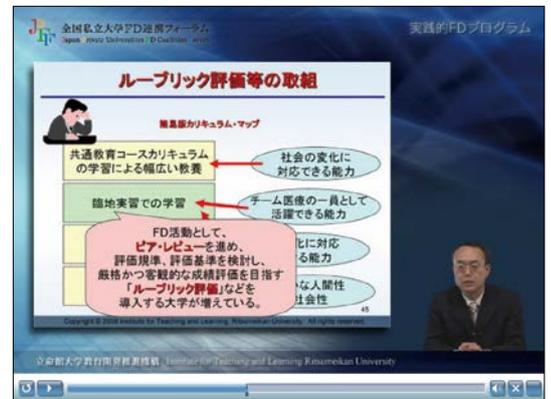
各大学の対象者や実施目的の違いによって、講義(オンデマンド)や講座(ワークショップ)等を選択し、様々なプログラムを作ることが出来ます。詳しくは、ウェブサイトをご覧ください。

JPFJ会員校

[http://www.fd-forum.org/fd-forum/html/fd\\_application.html](http://www.fd-forum.org/fd-forum/html/fd_application.html)

JPFJ非会員校

<http://www.ritsumei.ac.jp/itl/VOD/>



### 利用申込について

利用期間は1年間となります。(5月利用開始、翌年3月末終了)

上記のウェブサイトより「利用申込書」をダウンロードし、事務局へお送り下さい。

利用申込は随時受け付けておりますが、手続きのため、利用いただけるまでに約2週間かかります。

事務局校

立命館大学 (事務局:教育・学修支援センター 担当部署:教務課)

〒603-8577 京都市北区等持院北町56-1 TEL:075-465-8310 FAX:075-465-8311 e-mail:fd71cer@st.ritsumei.ac.jp